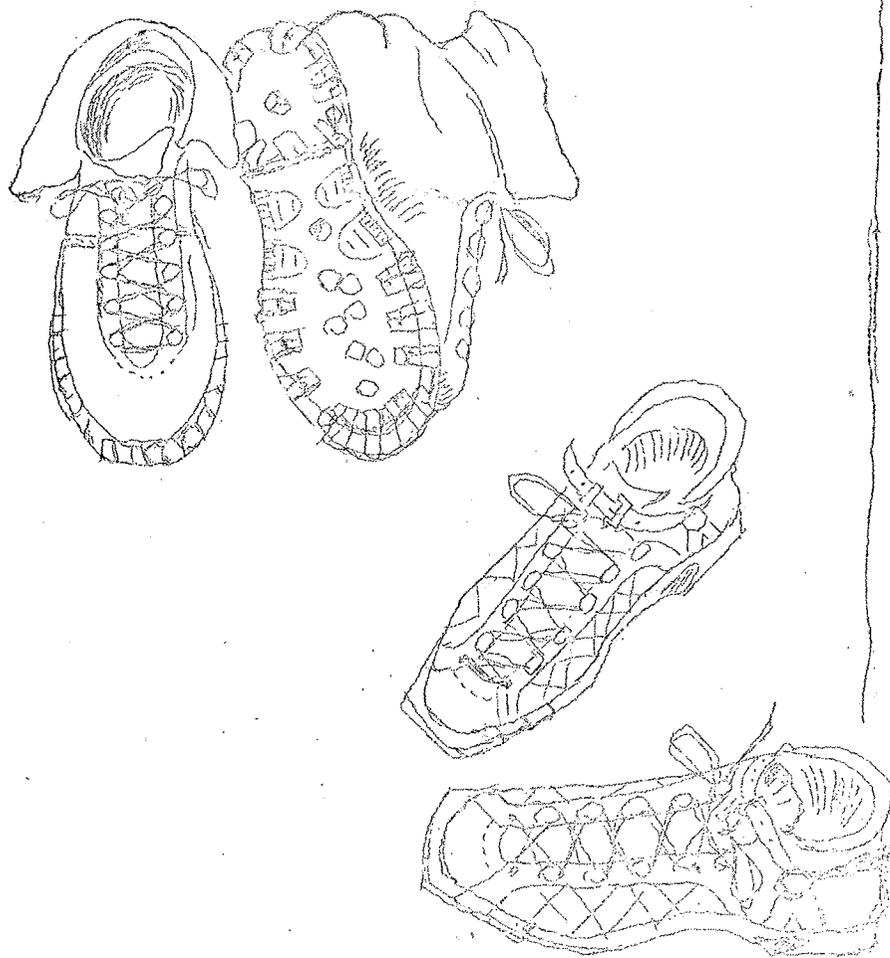


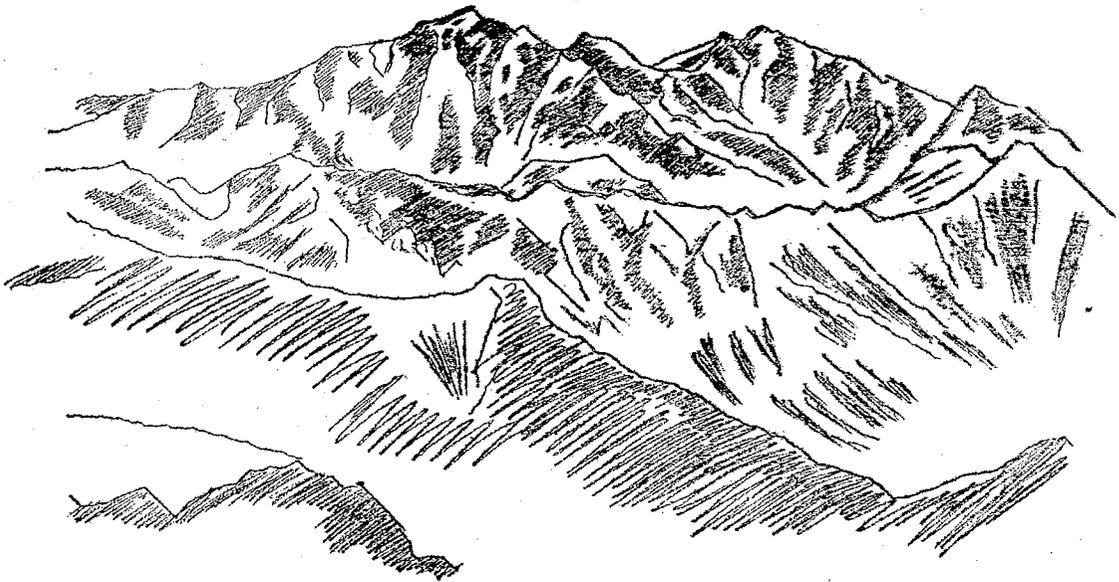
仿復 XV



都立西高等学校出版部

目次

1	歡迎會報告	京田	(2)
2	勤七沢報告	北村	(3)
3	香山偵察報告	松田	(4)
4	夏山縱走報告	北村	(5)
5	洞沢合宿報告	高小松田	(9)
	夏山縱走圖		(12)
	行動表		(13)
6	夏山雜感	田中(夫)	(14)
7	ゴシップ		(15)
8	夏山才力	北村	(16)
9	川苔集	松田	(18)
	滝谷	北村	
	瀧上谷	京田	
	倉沢地谷	田邊	
	逆川谷		
	川苔集中圖		(17)
10	終集後記		(20)



木曾駒ヶ岳より空木岳(左)と
南駒ヶ岳を望む

舟次勤七次

目的 新入生三岩場にたらし車
期日 六月十三日
X六ノ一 松田北村高山宮山小谷野黒沢山岸
廣野沢田 福田さん

行動報告

六月十二日 天気ハ曇り雨
天一通のうった雲にホッホれた天食の下
い四時半淡沢五出登一年をけ四費釋の荷を
大半一時向を歩いた頃より歩
してまたがそのまよとん
で二候小屋に着いた一年生は誰れも二時
様子五していな飯をたいり頃より本
降とるり全員懸念になつて火をゆり食
松田の持つてきた菓子にへるから九時
五月十三日 晴れ曇り
五時に起き登り七時に食後八時通過一
員ラジと著け七時に食後八時通過一
五登つて次々と現われ着いた後行際
くがて松田が登り順々に登つてい
つたの松田が登り順々に登つてい
つたの松田が登り順々に登つてい

五時に起き登り七時に食後八時通過一
員ラジと著け七時に食後八時通過一
五登つて次々と現われ着いた後行際
くがて松田が登り順々に登つてい
つたの松田が登り順々に登つてい
つたの松田が登り順々に登つてい

入りてんく傾斜も急になつてきた気も晴れ
見せてワカ正午換えるすッ登り花の吹く
に塔が岳へ方かん頂上に着く新しい山
建つていた日はかすむね照り登りあま
今年水場の水かすむね照り登りあま
周の展望は水かすむね照り登りあま
か少く来たりは水かすむね照り登りあま
十分歩りは水かすむね照り登りあま
雨と林道に出たので流すは例にする
合うため速足で流すは例にする

タイム
六月十一日 十五分 新宿発
六月十日 十六分 沢着
六月九日 十八分 俣小屋
六月八日 五時起床 七時出發 八時通過 八時

五時起床 七時出發 八時通過 八時
二十分着 九時着 十分着 十分着
三十分着 十分着 十分着 十分着
塔が岳 十分着 十分着 十分着 十分着
時十五分 無林道入り 十分着 十分着
着 十分着 十分着 十分着 十分着
宿着解散

(北相記)

春山計画 松田 稔

部の最高目標がある春山を我々は中興アレプス空木岳、石崎、千崖嶺に視が、7月15,16,17の3日間復察し、極めて高望との結論に達した。

しかし決して安易なルートではなく、強いナンバーシップと心要とし、精神的、肉体的苦難にうち克つてこそ初めて達成されるルートである。春山は5ヶ月後にせまった。しかし今からでも遅くはない。目標に備えて各自ポイントを持つてもらいたい。

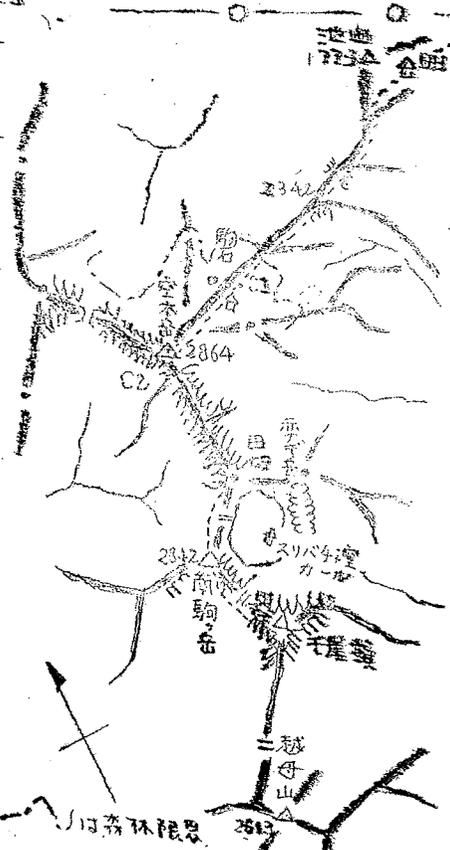
参考までにはコースの状態を記しておく。山山まはは楽なコースであるが、山山一色には道が細く、餌本もよく又数ヶ所のホトラースがある。前二日は日に向けて行くがそれではなほ存念に辛いであろう。しかし森林帯なので天候にはさ程支障されなれ。C1は森林帯を越す所に残る。C1-C2はあ天候次第。C2はオ三日目の復察が決まる

我々はまだ夏のうちに冬期のコンプライトを正しく指定できない。雪が冬へ3週間を予想以上の変化をさせるものである。空木一駒の稜線の東側はがしが多く、とうとういにはけなない。傾斜のゆるい西側を歩く事になろうが面が登りから厚心。ウツカリ東側に出た雪庇にのらぬ。

駒——千崖嶺は最悪。この間は二年部員だけが季になろうが、千崖嶺下のクワリ場は、氷がこびりついたら、新たなルートを発見しないかぎり、歩けないと思わされる。

昨年、昨年と二月の冬富士に四一二年もも多数参加してあははは。

× × × × ×
各々手帳日記三冊を準備する。雪崩の各所捕まるとなる事を見てもよく(復察の時も同様)を持ってはるが(復察の時)人件をさす。



行動表

日	行程	C1	C2	備考	手帳
1st	→				
2nd	→				
3rd	→	A →			
4th	→	A →	B →		
5th	→		A →		
6th	←		B →		

早くねて早くマキが... 早くねて早くマキが... 早くねて早くマキが...

八月五日 朝少し雨のち晴れ (黒部一雙六池)

はりま... 朝少し雨のち晴れ... 八月五日 朝少し雨のち晴れ... 早くねて早くマキが...

決を見下し、かすか... 決を見下し、かすか... 決を見下し、かすか...

八月七日 朝より晴

一生生... 八月七日 朝より晴... 一生生... 八月七日 朝より晴...

④ 視界が長尾は無用と總向小屋に急がうとする。松田がシヤンに行きたりと云い、松田が積り、小屋で一休、マツチ、附煙草を買って、サイテンを下りるが途中、マツチ、マツチ一時留置す。

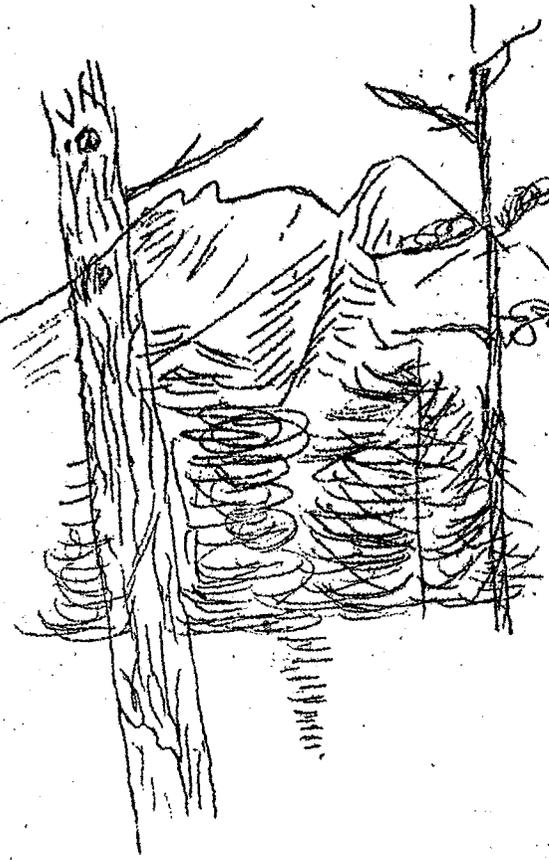
11日 08時 三峰のフエイス行、松田、シヤン、ダール、と飛弾尾根行、平沢、高山とサイテン、マツチ、二隊とする。

飛弾尾根

三峰隊出發後直ちに出掛ける。サイテンを登ると、遙か下方の雪溪上を連んでいる二人の姿が目にとまる。空はあくまで青く、登山者で、我々の向うには雄大な岩峰がそびえ立っている。奥穂高でスケッチをやりに望遠鏡を借りて三峰の様子如何と見るが早くも二人は中程まで達して居る。途中シヤン登攀隊中、落ちたという名大山岳部員の搜索隊に出合、いやいや思いを味う。さてシヤン頂上で一休息の後、いやいやとそろそろと下り、踏跡に頼り、二股になった稜線をとらバースして下ると、覺しき所へ出る。昼食、さてサイルを取ら出し、平沢先登隊いさよと技術について、よく語り、教授願、先ず平沢へ、トツで登攀開始。中々慎重な登り張りをした。まことに結構な岩場で、中々楽しい。岩屋、感もいんとある。T3 ↓ T2 ↓ T1 と存分練習した。後はコンテ、ニマスでシヤン頂上に出る。互互に無事、喜ぶが、又かすか出て来たか、急いで帰途に向う。サイテン、又マキを取った後、下りて行くと、小屋附近で三峰隊の出で、に会う。

12日 松田食当を買って出る。

飯が炊けたら又寝てしまった。昨日飛弾尾根から取った岩膏、ワカメのみ、汁中に入らる。一寸見ただけでは見当がつかぬ。今日は、滝谷才五、尾根に挑む日だ。汗だくで、2ピッチで南峰上に出る。P1、P2で行き、P2を南側に巻き、P3の年前で北山、後にとルンゼを渡る。この山、後、北側が突にす。ぱり、と、切、傾、斜、も、急、で、リ、ッ、牛、通、り、に、登、る、事、は、不、可、能、に、時、に、は、小、オ、イ、バ、ー、ハ、ン、ク、を、越、す、の、に、吊、上、り、寺、を、行、い、中、々、興、味、が、あ、る。P1、P2の壁には、足、場、少、く、微、妙、な、冒、険、を、送、ら、れ、る、個、所、も、少、く、な、い。二、時、間、余、り、か、け、て、登、攀、終、る。か、す、か、出、て、来、る。北、峰、通、り、行、つ、て、か、ら、松、田、は、サイ、テ、ン、を、廻、り、我、々、は、南、稜、へ、と、下、る。今日、は、合、宿、最、後、の、夜、で、あ、る。昨日、集、め、た、大、量、の、マ、キ、で、大、な、キ、ヤ、ン、ブ、を、ア、ー、で、彩、る。



8月11日(晴れ後がス)

三峰系イス 福田OB 松田

ザイル 30M ハンマー / ハーケン6(使用2)

カラビナ 4

タイム BC(06:15) - 岩イス取附(07:45) - P3(10:05)

BC(11:50)

全く晴れわたったBCを後に三山の雪渓を登る。今日日本登山会ルートを経て三峰FACを登るのだ。三四の雪渓はヤケに固い。もしやすくと石塗かも知れない。昨日見た紅い血は危い。変色してはえがたかっていた。あ、はなりたくな。取つきで一休む。もしもの時に備えキヤラメルを全部食べしてしまう。福田さんゴトゴトアインガイレにして登りはじめたがとつきがはこりしないのではなはだ心細い。

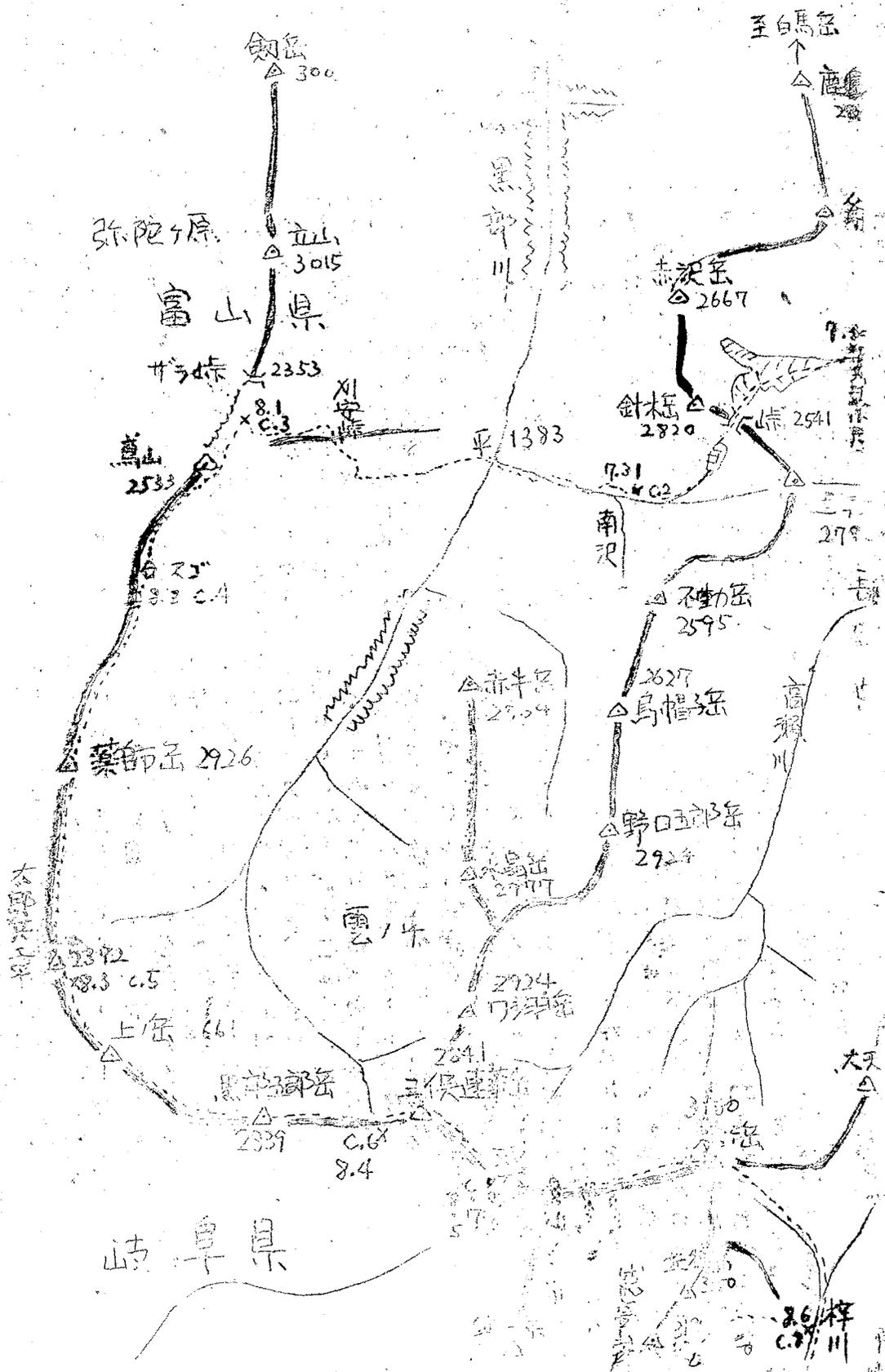
岩にトラバースした所でオートバトハンクが味の所にハイクンをみつけ大いに勇気づけられ。又同じ称なトラバースを続けてガリト上端にズビツで到着。30M一杯に使用してガリト上端に達す。ハーケンを本を打ち、小オートバトハンクを越える。後で聞く所は外れは此所は危い。背帯を用いて登るのだ。もうだが、福田さんは苦勞して直登。僕は右にまいたがセカンドはいい加減首が痛くなつた。この次のトラバースが最悪。我々は五十分で通過した称に思っていたが、奥穂から見ていたH氏の言によれば足を出したり動かしめたり30分位をタラしていたそうだが、このトラバースを終ったララで一休み、早急下山者もながめていた。五年は指をく

わえてクライマーを眺めていたんだがな。ソコからはいした苦難もなくズビツで上部テラスに出るとニアスやシリソリなど適当に練習をやりながらP皿に立つ。福田さんと今日も又生きて居たと確信。時計を見るとまだ早い。今日も奥穂をまわって行きなかつたが、北尾根を下る。登るのと重い下りは急こう辛い。同じルートなのに人同様に変なものがた。雪渓上部でRCセルトをながめながらスゴクた。ひどいミカブラに悩まされながらザイルで三四のワルの雪渓を下る。夕食までたんまり時間があるのでゆくり時間をかけザイルのバタ煎りをやる。すばらしくうまい。一隊はさほど疲れなかつたが精神的に疲れたりしい。ギンガルトム形驛尾根を登った平沢さんと高山のことがいやは気になる。打合せの四時になつて帰って来ない。急いで二人で夕食を食い、ザイルを登りはじめたらノコノコ降りて来た。

(松田)

8月13日 幼半月はわたって行かれた夏山合宿も今日で終りである。我々四人は六人分の食糧を食べつくし、元氣一坏橋尾に下山し、今朝は向う平沢。福田氏は別れ穂刈新道を高地に下山。荷物を持つ大のギスリニゲートはまとの登り十月やマヤヤク。真白はなつて高地から高々につく。松本で都筑先生に夕食をゴクソウはなり、ガライの臨時列車で夢をこぼして帰京。

(松田)



夏山縦走行動表

7月28日
先発(田中実氏、北村、小谷野)
23:55 出発
松本都筑先生宅にて一泊

7月29日
本隊(松田以下6名)
22:15 出発

7月30日 晴
松本駅で合流
5:30 臨時に上車
6:52 大町着
8:30 大発
11:00 黒沢通過
11:45 白沢合流
昼 水より1.5分
(A) 13:00 松田以下6名出発
15:35 扇谷合流通過
17:30 小屋の先2分の所にキャンプ
21:30 就寝

(B) 14:45 北村本隊を追ふ
田中氏は田辺と安に下山
20:30 北村大沢小より5分の所にピバーブ。

7月31日 晴
4:45 北村は本隊に着き連絡
8:40 出発
9:50 針ノ木雪渓で遊ぶ
10:50 発
12:20 昼食
13:26 田中実氏着
14:45 針ノ木峰着
16:30 針ノ木谷に入る。
17:55 テニト場着
21:00 就寝

8月1日 晴
4:30 食当起床
7:00 出発
7:25 南沢着
8:55 平着 橋を渡す
12:45 雁安着
15:05 五色着

8月2日
4:30 起床
6:00 出発
9:05 越中沢岳着
13:35 スゴ心着
18:30 就寝

8月3日
3:30 起床
4:30 出発
9:10 奈師糸頂上着
12:17 大沢小ヤ着
14:30 就寝

8月4日
2:30 起床
4:30 出発
8:15 大沢小ヤ着
10:45 テニト場着
18:00 就寝

8月5日
1:45 食当起床 朝食の後雨
9:15 出発
11:00 三保蓮華岳頂上着
13:25 双六池着

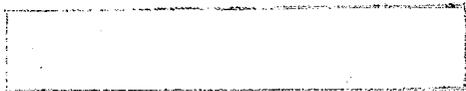
8月6日
4:45 出発
6:45 千丈沢上着
9:10 槍の肩着 頂上入る
10:00 槍の肩岳着
13:10 一の尾小ヤ着
14:20 横尾キャンプ場着
19:00 就寝

8月7日
7:00 起床
8:00 出発
9:20 徳沢園着
10:45 明神池着
11:20 河野着

今因は私小同行したわけであるが、この水は学
 校に於て命令であつて西高山岳部にとつてマイ
 ナスであつた。それは見逃がせまい。四季折々の山
 行に關しての旨会は適切な助言と指導を行つた
 の同行し、又自主活動をさせているのであるか
 ら。學校側の態度は非にうごなき、高校生が遊樂
 に對しつゝの目的が同行すれば火と夫々からい
 可受は、これに旅をせしむる親にしては、誠はたよ
 り有り難いである。と之を以て今度の夏山は記録的
 には何事もない。しかし天候は恵まれずといふ事は
 山に於て第二の條件なりであるから過大評価
 出しはしなす。運命の偶然なり。病人を共にながら
 半程は又が定着の全計画を遂行出来た事は天候
 の幸に二倍の功をなす。細か高次生であつた。在道
 は指導者とシテ指導者もなく北アルプスにゆく
 といふ事などは、おれそれた夢であつたのであ
 る。そして三峯スエス、遠谷などは勿論高嶺の
 花である。バウバウのムムバシツアで與縁父
 縦走を試み凡雨の中で休息をさせ、足がつかせ
 てば互に倒れる女を介しても、まじまじとせざ
 るを得なかつたのである。この向の進歩とは何
 であらうか。田中特利氏以下の在中まゆ情熱で
 ある。即ち西高山岳部における正統的登山が形
 作りれてきたのである。そういふ、在時かつてな
 いほどの率直的な山行が計画され成功して事成

して正部員は正部員たるプライドも持たぬ
 存り。それは心身両面の練磨によつて得られた
 あつて決して地位の意識ではない。体力忍耐技術
 生活に關して下級部員の模範たり得るかといふ事
 も考えおぼはるべきでない。成功の連続は或る場合、無
 理による道理を生ずる。又部員制の甘受は進歩の
 停滞をみせるものである。部員会における紙上の
 採算が、にほえ麗達を準部員にして、又正部員
 にしてモチ分の実力以上のものを得ることには危険
 である。夏山からははずれるが過日の集中に於け
 る遠谷の転落、滝上の後退はこれら例にほが
 りない。不足は資格以上のにあるのである。
 縦走中ニミの病を出した人が、幸ひ一人は初日の
 リー人は解散日近くであつた。左の支障なく終つたが
 前者は縦走前の無理な富士登山が原因。後者は
 見逃がせぬ。又銀岳時間であるが、今回は三日目
 からの特に強調した事によつて、多くのパーテが出
 合つた雨を全部回避して行ける事はそれ以上に基因す
 る所が大変である。些細な手落ちは山に於いては指
 水に事せあり、そうかといつてこの水といつた注
 意を招く事もなく全計画を終了出来た事は何より
 であつてそのリーダーシップは高く評価される
 最後は一書を書きたり事は、つらい事を買つて出よ
 として更にはつらい事を買つて出よはなりなりの
 あり。

完



THE HÔLÔ P. 15 1807 10 (OCTOBER, 186)